

## 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりへの取組

滋賀県および県内市町では、国の制度も活用しながら、地域の魅力を高め、活性化を図るなどの滋賀ならではの様々な取組を行っています。

本格的な人口減少社会を迎える中、国や地方公共団体、企業、地域社会等が連携して知恵を出し、それぞれの役割のもと、地域の実情に応じた滋賀らしい実効的な政策を推進することが重要と考えていますので、今後とも国のご協力をお願いします。

### ○ 「農家民宿」を核とした都市・農村交流による農村の魅力発信

本県の農村地域の持つ、琵琶湖辺から奥山まで美しく多様な自然環境や農村景観、また地域の心温かな住民性や農村ならではの住民間の濃厚な絆などの地域資源を活かして、「農家民宿」を核とした都市・農村交流を推進しています。

例えば、日野町では、先駆的に「農家民宿」等を利用した農村生活体験型教育旅行の取組を進めており、県内で広がりを見せ、平成 24 年度は県外を中心に 4,007 人が宿泊されています。



収穫体験



肥料散布体験



郷土料理体験

### ○ 地域おこし協力隊制度を活用した地域力の維持・強化への取組

県内各市町では、総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、都市住民に定着してもらい、地域力の維持、強化への取組を行っているところです。

例えば、米原市伊吹北部地域は、米原市の中でも人口減少や高齢化が顕著な地域で、過去 20 年間で人口は 3 割以上減少し、高齢化率も 50% に迫る状況です。

このため、「水源の里まいばら みらいつくり隊員」が活動を展開し、「里おこしイベント・伊吹の天窓」を毎年開催するなど、地域の方々と共に多彩な活動を通じて集落の再生を応援しています。

また、豪雪地帯でもある伊吹北部地域「東草野の山村景観」は、暮らしの中で長い年月をかけて形づくられてきた特に魅力ある景観として、国の重要文化的景観に選ばれており、この選定をステップとして集落の魅力が高まり、移住促進につながることを期待されています。



里おこしイベント・伊吹の天窓



開催風景 Copyright ©2012 Ibuki no Tenmado



国の重要文化的景観「東草野の山村景観」

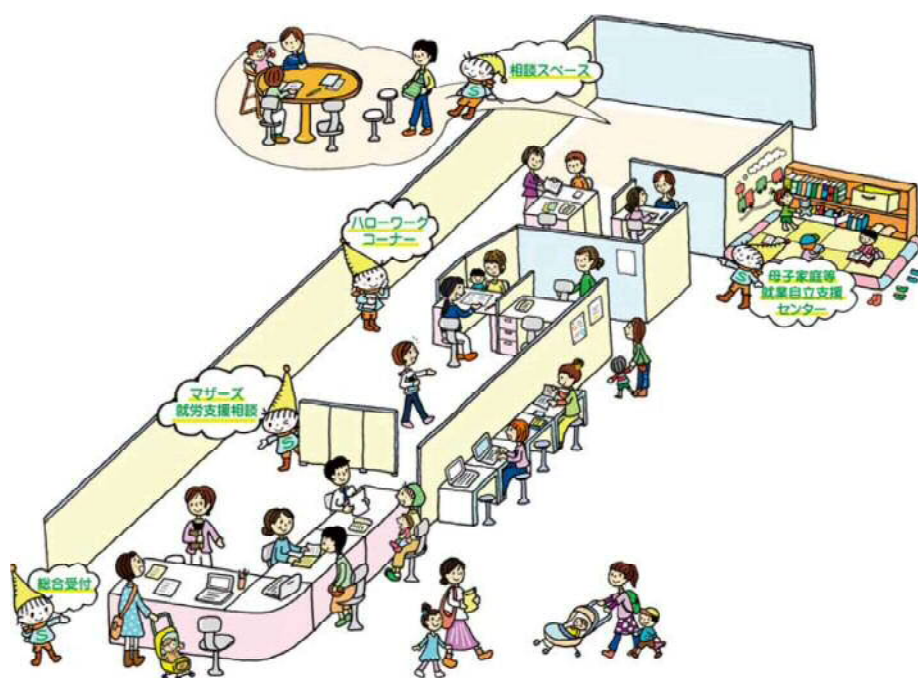
## ○ 「滋賀マザーズジョブステーション」の設置による女性の活躍推進

本県では、出産や子育てによる離職後の再就職や、社会へ踏み出したい女性、自立を目指す母子家庭の母等を支援するため、「滋賀マザーズジョブステーション」を設置しています。

当ステーションでは、就労相談や仕事と子育ての両立に向けたアドバイス、一時預かりの実施、求人情報の提供や職業紹介などの就労支援をワンストップで実施しています。

年々増える利用者のニーズに応えるため、平成26年度には、近江八幡市内に加え、草津市内へも設置したところです。

平成25年度は、2,069件の相談があり、ステーションを通じた就職件数は246件となっています。



イラスト：タカノキョウコ

## ○ 保育所等における乳幼児一時預かりの取組支援による子育て環境の整備

育児疲れや育児の不安感・負担感を抱えた保護者が、保育所等の一時預かりを必要なときに利用しやすいよう、一時預かり事業にかかる利用者負担分について、市町の取組を支援しています。

平成25年度は7市町22施設で実施し、505人、803枚の利用がありました。

- ・ 0歳児の保護者を対象に一時預かり無料利用券を配布
- ・ 一時預かり事業を安定的に実施するための保育士配置への支援（人件費補助）
- ・ 市町に対する一時預かり無料券配布事務費等の補助

## ○ 体験学習の推進による子どもたちの豊かな人間性、思いやりの心を育てる取組

本県では、子どもたちの豊かな人間性や思いやりの心などを育むため、子どもたちの体験機会の充実を図ってきました。

小学生を対象に優れた舞台芸術を体験する「ホールの子」や、森林体験学習「やまのこ」、農業体験学習「たんぼのこ」、中学生の5日間の職場体験「中学生チャレンジウィーク」などの取組を行っています。

特に、本県独自の取組として、学習船「うみのこ」を利用して、県内の全小学5年生児童に対して1泊2日の宿泊体験を行っています。

昭和58年就航以来、平成25年度末までに県民の1/3に当たる約48万人が乗船しています。現在、就航後30年を経過しているため新船建造に着手しているところです。

森林体験学習「やまのこ」



びわ湖フローティングスクール  
「うみのこ」



次世代文化芸術推進事業  
「ホールの子」



中学生5日間職場体験  
「中学生チャレンジウィーク」



農業体験学習「たんぼのこ」

## ○ アール・ブリュットの総合的な振興による地域活性化の取組

本県では、文化などの地域資源の魅力を高め、内外に発信し、来訪者の増加により地域活性化を図る取組を推進しています。本県が推進している取組の一つとしてアール・ブリュットの総合的な振興があります。

滋賀県草津市在住の澤田真一さんの作品がヴェネチア・ビエンナーレに招待されるなど日本のアール・ブリュットが国内外で大きな関心となっています。2012年4月、オランダを皮切りに始まったヨーロッパ巡回展は現地で好評。2か国めとなるイギリス・ロンドンにあるウエルカム・コレクションでは約3か月の会期で94,000人が来場しています。



第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展招待作品

(撮影・高田真澄)



○ 地域で大切に守られてきた豊富な文化財、伝統行事の次世代への継承

本県は、国宝・重要文化財の指定件数において東京、京都、奈良に次ぐ文化財の宝庫です。また、祭りなどの歴史ある伝統行事も盛んに行われてきました。子どもが中心の祭りも多々あります。

県内に広く分布した文化財や伝統行事は、地域コミュニティ等が基盤となって悠久の時を越え、いまでも地域の暮らしの中に息づいています。

若者や子どもが減少する地域では、文化財の維持や伝統行事の継承が難しくなっている中、守るための活動を支援しています。

琵琶湖に浮かぶ信仰の島「竹生島」(宝厳寺および都久夫須麻神社)

湖中の鳥居、近江の厳島「白鬚神社」

日本三大山車祭の一つ「長浜曳山まつり」

石道寺(十一面観音立像)

湖北で受け継がれる十一面観音「石道寺十一面観音立像」

伊崎寺の8月第一日曜の風物詩「伊崎の竿飛び」

日本仏教文化の母山世界遺産「延暦寺」

江戸時代初頭から行われている祭礼「大津祭」

桓武天皇の病を癒したと伝える湧水「善水寺」

東近江市白鳥神社で行われる7歳~15歳の子どもが主役の「まんどう火祭り」